

二級河川宍喰川水系  
河川整備基本方針

平成20年12月  
徳島県



## 目 次

|   |   |
|---|---|
| 1 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針                  | 1 |
| (1) 流域及び河川の概要                           | 1 |
| (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針                | 4 |
| 2 河川の整備の基本となるべき事項                       | 6 |
| (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項       | 6 |
| (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項               | 6 |
| (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項    | 7 |
| (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項 | 7 |
| (参考図)                                   |   |
| 穴喰川水系図                                  | 8 |



# 1 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

## (1) 流域及び河川の概要

### ア 流域の概要

宍喰川はその源を徳島県海部郡海陽町中谷（旧宍喰町）の山中に発し、尾崎地区で流域をほぼ二分する広岡川と坂瀬川の支川を合わせ、平野部を貫流し太平洋に注ぐ、幹川流路延長13.6km（徳島県知事管理区間11.127km）、流域面積37km<sup>2</sup>の二級河川である。その流域は海陽町宍喰地区（旧宍喰町）全域の約40%を占め、宍喰地区の幹をなす河川といえる。

流域の地形は、上流部（源流から塩深付近）が標高400～900mの峰々からなる山地、中流部（塩深付近から尾崎橋）はかつて海岸線であった谷底平野、下流部（尾崎橋から中角橋）・河口部は三角州性低地からなる。流域面積の97%を山地が占め、河床勾配が1/20～1/100の区間が約47%を占める。

流域の地質は、仏像構造線以南の四万十帯の南帯に区分される。四万十帯を構成する地質は、主として砂岩・泥岩である。

流域の気候は、夏に雨が多く、冬に雨が少ない、太平洋側気候に分類される。年平均降水量は約3,160mm、年平均気温は約16℃であり、この流域は県内で最も降水量が多い地域に属する。

### イ 自然環境

上流部は、豊かな自然環境を残した美しい渓谷が発達している。岩と巨石からなる渓谷に清らかな水が流れ、魚類ではアマゴ・ルリヨシノボリ・ボウズハゼ等が生息する。鳥類では、キセキレイやミソサザイ等が生息している。周辺の山林は、スギ・ヒノキの植林が多いが、常緑広葉樹であるシイ・カシ群落も分布している。

中流部は、河岸段丘上に角坂・芥附・広岡等の里地が発達している。そのため、所々に取水堰が設置されている。河道には瀬と淵が連続し、カワムツ・ヌマチチブ・ボウズハゼ等の魚類が生息する。鳥類では、カワセミ・カワガラス等が生息している。河畔にはツルヨシが繁茂し、河道周辺にはスギ・ヒノキ植林や竹林が多く見られる。

下流部は、河道が開け、洲が発達し、ツルヨシ群落が広く分布する。魚類では、アユ・オイカワ・ボウズハゼ等が生息している。また、徳島県レッドデータブックの準絶滅危惧種に該当するアユカケ（カマキリ）が確認されている。水流の緩やかな所はサギ類の採餌場となって

おり、水面にはカルガモが生息する。

河口部(中角橋から河口)は、海岸の漂砂によって砂嘴<sup>さし</sup>が発達しやすい状況にある。植物では、徳島県レッドデータブックの絶滅危惧種に該当するタコノアシが生育するほか、ヤナギ林が発達し、シオクグ・カモノハシ等の塩性湿地植物群落も分布する。また、魚類では、汽水・海水性のクロダイ・ボラ類等が生息し、底性動物ではゴカイ類やカワスナガニ等の汽水域特有の種が生息する。鳥類では、徳島県レッドデータブックの準絶滅危惧種に指定されているチュウサギなど、サギ類が多くみられる。

## ウ 水 質

穴喰川の水質汚濁に係る環境基準は、全域に渡りA類型に指定されている。水質観測地点のうち、環境基準点の中角橋、環境補助点の穴喰橋とも概ね環境基準を満足しているが、大腸菌群数については基準値を上回ることが多い。

## エ 治水事業等の沿革

海陽町穴喰地区は、年平均降水量が3,000mmを超える多雨地域であり、台風や前線に伴う豪雨や局地的な大雨による水害に悩まされてきた。

特に大正8年には、<sup>まつもと</sup>松本・<sup>なかつの</sup>中角堤が決壊し大きな被害が出た。昭和になっても氾濫は繰り返され、抜本的な氾濫対策として河川改修を要望する住民の声が高まり、昭和37年から小規模河川改修事業として築堤・河床掘削・護岸などの河川改修に着工した。昭和55年には、<sup>おおの</sup>大野地区から下流の改修はほぼ完成したが、その他の地区では氾濫による被害が生じており、流域住民から治水安全度の向上が望まれた。これを受けて、昭和60年に<sup>はせば</sup>馳馬まで、平成8年に広岡川合流点まで改修区間を延長している。

その後、事業を継続しており、平成18年度末現在、整備途中である。そのため、平成2年、10年、14年、18年と浸水被害が生じている。特に、平成10年5月豪雨では、床下59棟、床上9棟などの浸水被害を被っており、治水に対する住民の不安は解消されていない。

また、穴喰浦地区においては、過去の記録から1512年以降、たびたび津波被害が生じている。さらに、将来、発生が予想される南海地震に伴う揺れや津波により、甚大な被害が想定されている。

## オ 水利用

宍喰川流域は、古くから水田が開け、多くの面積を有していた。これらの農業用水は、宍喰川に設置された取水堰及びポンプにより取水し、現在でも約150haの耕地を灌漑している。また、上水においても、平野部の水道用水や山地部の簡易水道など、その水源は宍喰川及びその伏流水を利用している。

## カ 空間利用

海陽町宍喰地区の海岸は日本でも有数のサーフィンのメッカとなっているが、波が高く砂浜が少ないため海水浴場には向かない。このため、宍喰川平野部の水際が、流域の子供達の水遊び場となっている。特に、<sup>まさかじ</sup>正梶堰の湛水域は、宍喰中学校のプールとなるほか、地域住民の水泳場として利用されている。

また、<sup>ひびはらしょうだいのかみ</sup>日比原正田の井ノ上神社で井ノ上さんと称するお祭りがあり、毎年7月の例祭には川の中にあばれ神輿がでて、多くの人で賑わう。

さらに、宍喰川全域に自然と共生した昔ながらの暮らしが多く残っているほか、アユやアマゴなどの清流釣り場として、地域の釣り人に親しまれている。

## キ 社会環境

海陽町宍喰地区は農業と漁業の町であるが、年々第一次産業従事者が減り、第三次産業従事者が増加している。また、少子高齢化による過疎化が大きな社会問題となっている。平成18年時点で、宍喰川の流域内人口は約3,000人である。

流域の主要な交通は、県南地方の大動脈である国道55号と<sup>あまき</sup>阿佐海岸鉄道阿佐東線であり、両者とも宍喰川を横断している。

## ク 歴史・文化財等

海陽町宍喰地区の歴史は古く、<sup>かいふぐん</sup>海部郡の中でも最も早くから開けた地域だと言われ、日本書紀に地域の成り立ちが記されている。文化遺産としては、日本三大祇園の一つといわれる<sup>やさか</sup>八坂神社の祇園祭が、天然記念物としては、国指定の<sup>すずけみね</sup>鈴ヶ峰のヤッコソウ発生地、町指定のハッコウトンボなどがある。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

徳島県では、川づくりの基本理念として「安全で安心のできる社会の実現(安全・安心)」、「自然環境の保全と創造(環境)」、「個性を育み活力ある地域社会の形成(活力)」を掲げ、自然環境と調和した安全で個性を育む社会の実現を目指している。

穴喰川水系の河川整備では、「人と自然が共生するきれいな水と豊かな自然環境の川」を目指し、関係機関、海陽町、地域住民との連携を図り、地域の個性を活かした河川整備を行うとともに、治水・利水・環境に係る施策を総合的に展開する。

### ア 洪水・高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する事項

#### 1) 洪水・高潮による災害の発生の防止または軽減

地域住民の生命・資産を洪水から守るため、既往の洪水、河川の規模、流域の資産等を踏まえ、県内の他河川とのバランスを考慮し、平成10年5月豪雨と同規模のおおよそ30年に1回程度発生する規模の降雨による洪水を安全に流下させることを目的とする。

河口部では第2<sup>むろと</sup>室戸台風級の高潮や内水被害が懸念される地域については、関係機関と連携を図り、必要に応じて被害の軽減対策を行うものとする。

また、計画規模を上回る洪水・高潮や、整備途中における施設能力以上の洪水等に対して、関係機関や地域住民と連携を図り、総合的な被害軽減対策を推進する。

さらに、河川の維持管理に関して、常に河川管理施設の機能を最大限に発揮できるように、河川管理施設の点検及び管理に努める。

#### 2) 地震・津波による災害の発生の防止または軽減

将来、発生が予想される南海地震に伴う揺れや津波に対し、「死者ゼロ」を目指すとともに、関係機関や地域住民と連携を図り、総合的な被害軽減対策をハード・ソフトの両面から推進する。

### イ 河川の適正な利用および流水の正常な機能の維持に関する事項

流域の各種用水の確保と渇水に強い地域づくりのため、主な利水用途である農業用水の適正な利用に配慮する。渇水時には関連情報を正確かつ迅速に収集し、状況を把握するとともに、関連情報を提供するなど円滑な渇水調整を行う。

また、動植物の生息・生育環境、景観、水質保全等の水環境を良好に維持するため、必要な流量の設定に努める。



#### ウ 河川環境の整備と保全に関する事項

治水・利水との調和を図りつつ、良好な流水を守り、多くの動植物の生息・生育空間である瀬・淵・砂州及び植生を維持するとともに、水域の連続性を確保し、回遊性魚類・甲殻類等が遡上・降下できるような良好な河川環境の整備・保全に努める。

また、地域住民が親しみやすい川を実現するために、関係機関と連携しながら親水性を有する河川空間の確保に努める。さらに、河川愛護の啓発に努め、地域と一体となった川づくりの取り組みの推進に努める。

#### エ 地域の個性の創造と地域発展に関する事項

宍喰川は、清流釣り場や地域の水泳場として利用されており、自然と共生した暮らしが残っていることを踏まえ、流域の自然や地域の風土を生かした川づくりを目指す。

このため、関係機関や地域住民の意見を河川整備に反映させ、宍喰川の自然・社会環境・歴史を活かした川づくりに努めるとともに、河川愛護活動や防災学習など河川に関わる取り組みを支援する。

#### オ 河川の維持管理に関する事項

災害発生の防止又は軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、宍喰川が有する多面的機能を十分に発揮できるよう適切に行う。

また、OURリバーアドプトをはじめとする施策により、地域住民やボランティア団体の河川清掃活動を支援する。

## 2 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

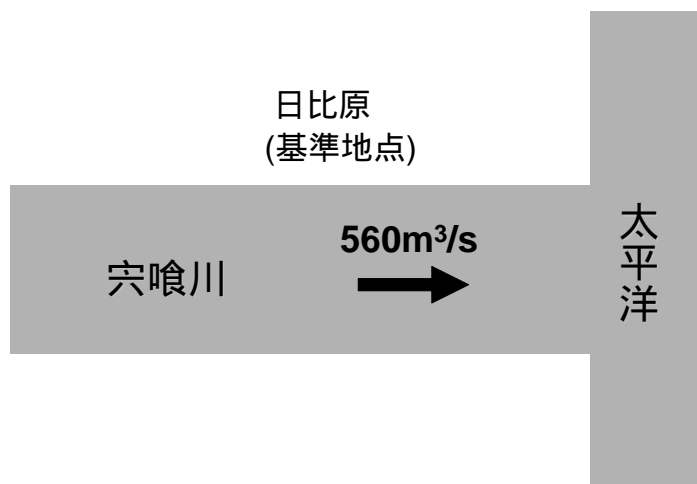
基本高水は、平成10年5月豪雨と同規模のおおよそ30年に1回程度発生する規模の降雨による洪水について検討を行った。その結果、ピーク流量を基準地点「<sup>ひ</sup>比原」において $560\text{m}^3/\text{s}$ とし、これを河道によりすべて流下させるものとする。

基本高水のピーク流量等一覧表

| 河川名 | 基準地点 | 基本高水のピーク流量               | 洪水調節施設による調節流量 | 河道への配分流量                 |
|-----|------|--------------------------|---------------|--------------------------|
| 穴喰川 | 日比原  | $560\text{m}^3/\text{s}$ | -             | $560\text{m}^3/\text{s}$ |

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

穴喰川における計画高水流量は、基準地点「日比原」において $560\text{m}^3/\text{s}$ とする。



計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位および計画横断形に係るおおよその川幅は次表のとおりとする。

河川工事の実施において、河道の横断形は現況の形状を尊重し、適正な環境の保全と整備に配慮したものとする。

主要な地点における計画高水位等一覧表

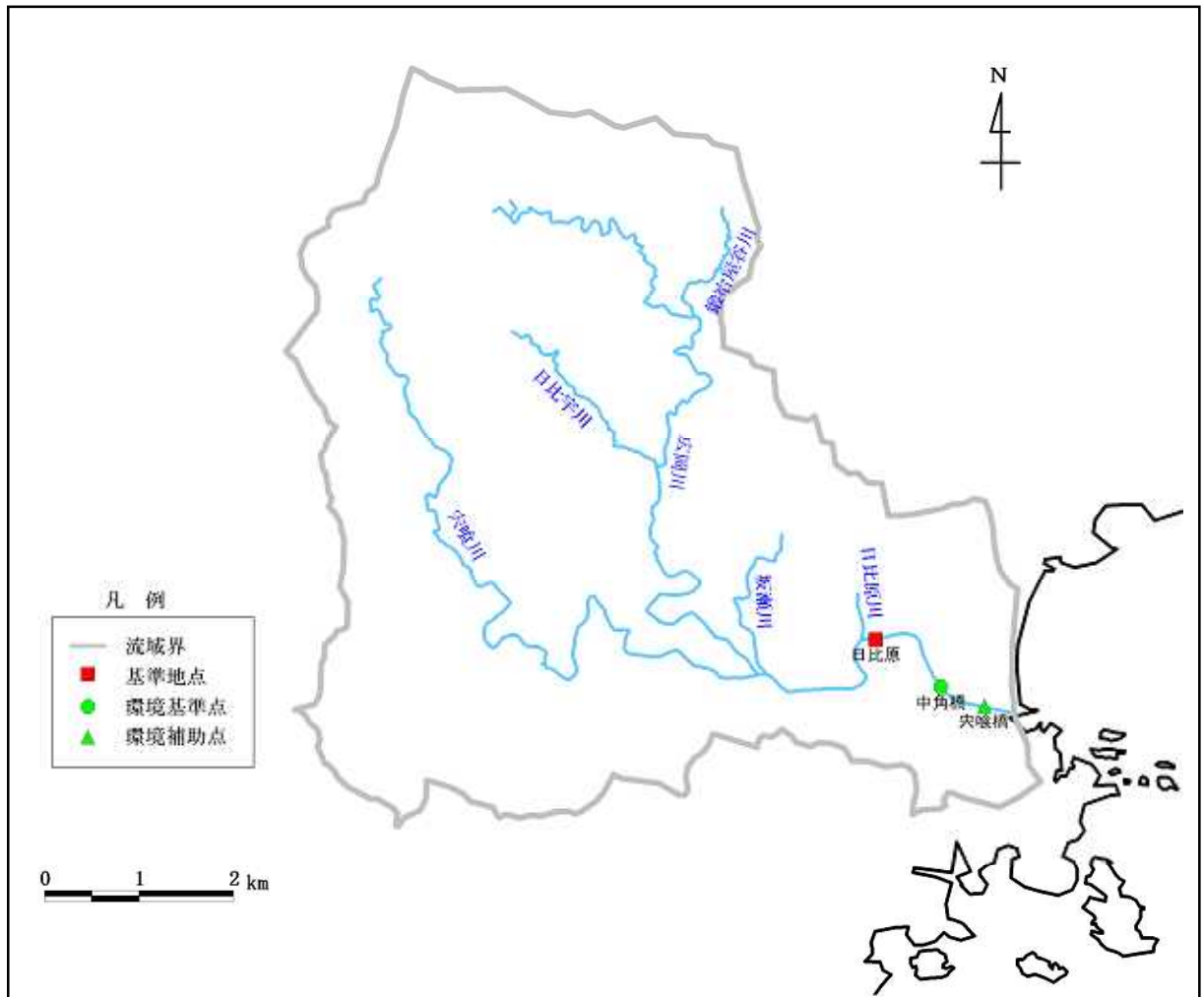
| 河川名 | 地点名 | 河口からの距離<br>(km) | 計画高水位<br>(T.P. m) | 川幅<br>(m) | 備考                  |
|-----|-----|-----------------|-------------------|-----------|---------------------|
| 穴喰川 | 日比原 | 2.0             | 6.5               | 65        | 計画高潮位<br>T.P.+2.75m |

注) T.P. : 東京湾平均海面

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

穴喰川における既得水利としては、農業用水と養魚用水がある。農業用水は許可水利及び慣行水利であり、養魚用水は許可水利である。これまでに大きな湯水被害などは発生していない。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関しては、流量等の河川状況の把握、水利の現状、動植物の保護、景観、水質保全等を考慮し、今後さらに調査検討を行ったうえで設定するものとする。



(参考図) 穴喰川水系図